

# 車にこすり傷がたくさんある

— 運転力低下への対応

認知症  
しち-はち-きゅう  
789  
みんなであらゆる  
試して  
学んで

車にこすり傷が  
たくさんある

認太郎…主人公 (認知症)



認太…息子

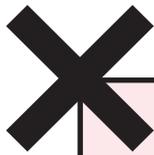


知子…嫁



認左衛門

…認太郎一家のご先祖  
守り神、お助けマン



駐車も危なっかしいのう



\*いつもうまくいくわけではありません。

# 車にこすり傷がたくさんある

## — 運転力低下への対応



### 中核症状(必ず現れる症状): 注意障害、理解力、判断力の低下

高齢になると、視力や聴力、そして瞬時の判断力などが自然と衰えていきます。

ブレーキをかけるタイミングが遅れたり、相手が止まってくれるだろうと甘い判断をしてしまったりします。認知症を伴っている場合には、注意力や理解力、判断力が低下していることで、より助長され事故につながってしまうことがあります。

駐車をしようとしても枠内に入れられなかったり、車庫や障害物にぶつけてしまうこともあります。これは判断力や空間認知力の低下によるものです。自分自身の体の位置自体がわかりにくくなっているため、家の中では自分自身が柱などにぶつかりやすくなっています。ひいては車をぶつかけたりすることにつながっているのです。

このケースのポイント

どうすればいい?

#### 対応法 ①

高齢者支援センター(包括支援センター)に相談してみましょう。



#### 対応法 ②

認知症の疑いがあるので、かかりつけ医や専門医に相談してみましょう。



#### 対応法 ③

大きな事故になる前に、免許返納を促しましょう(経歴証明書がもらえるのは、免許を自主返納した場合のみです)。



高齢者の運転では、判断力や運動能力の低下が事故につながりがちですが、なかでも認知症の場合は、認知機能の低下による事故が顕著になります。安全に制動したり、障害物の回避、交差点での安全確認など、様々な運転動作が適切に行えず、事故につながることが多くなります。

道路交通法の改正で、75歳以上のドライバーで認知症の疑いのある人は、医師の診断が義務化されました。認知症と診断されると、免許の停止が取り消しとなります。

危険な運転をしている可能性のある場合は、まずは自主返納をお勧めしますが、本人を納得させるのはなかなか難しいことも。そんな時には、主治医に、車の運転が危険であることを話してもらうのがよいと思います。ただ、認知症であることで、免許を返納したこと自体を忘れてしまったり理解できない場合もあるので、根気よく、運転できないことを伝える必要があります。運転にこだわりが強い場合は、その理由をよく聞いて、希望をかなえるための代替手段を講じたり、家族が協力したり、介護保険サービスを利用したりしましょう。

医師からのアドバイス



—— 汐ヶ崎病院 認知症疾患医療センター長 高沢 彰